

令和8年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業計画一覧 （1/3）

No	事業名	市民活動センター「6つ」の機能 1. 市民活動の窓口、相談、支援機能 2. 情報収集・提供・発信機能 3. 交流・ネットワーク機能 4. 活動拠点及び事務所機能 5. 市民活動に関する学習・研修機能 6. マッチングと協働支援の機能 ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可) ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可)						令和7年度・実施結果に対する 課題と今後の対応	目的・目標	令和8年度 実施計画・実施予定
		1	2	3	4	5	6			
1	利用者会議		○	○	◎			【課題】 毎回参加者は人数が集まる様になったが、参加者が固定化しないように配慮が必要。 【今後の対応】 新規団体登録時に、年に1回は利用者会議に参加する事を要請していく。	【目的】 利用者との意見交換の場をつくり、公正かつ透明な運営を実現する。 【目標】 年4回（各回2回開催）の開催 各回参加者20名以上	第1回：6月11日／6月14日実施 第2回：8月中旬実施予定 第3回：10月下旬実施予定 第4回：2月中旬実施予定
2	利用者アンケート				◎			【課題】 事業満足度の項目に未記入回答が多いため、回答率の向上に工夫が必要。 【今後の対応】 回答欄に実施事業の補足説明を加える等の工夫を検討	【目的】 センターへの評価や意見を収集するためのアンケートを実施し、結果を公正かつ透明な運営に活かす。 【目標】 年2回の実施、各回の回答数200以上	8月および1月に実施予定 共用スペースの利用に関する設問を追加検討
3	市民活動講座	○	○			◎		【課題】 昨年度の課題を踏まえ、登録団体の活動基盤の向上を意図した講座を多く実施。一般向けの講座は多くの参加者が集まるが、市民活動団体をターゲットとした講座には参加者が集まりにくい傾向がある。 【今後の対応】 活動の拡大や効率化を目指す登録団体に向けて参加促進の声掛けを継続していく。	【目的】 市民活動に役立つ各種講座を開講し、市民活動の継承やステップアップにつなげる。 【目標】 年4回以上の実施	1. 「市民活動を始めよう」7月実施予定 2. 「活動の仲間を増やそう」8月実施予定 3. 「運営力をつけよう」10月実施予定 4. 「事業を拡大しよう」2月実施予定
4	協働を促す企画			○			◎	【課題】 市民団体同士の協働の場はつくれているが、企業や大学等、地域の幅広い主体と協働するためのきっかけも必要。 【今後の対応】 企業や大学等も参加できるイベントを企画していく。	【目的】 さまざまな課題を解決するため、市民活動団体や企業、自治会等とのコーディネートを行い、協働のきっかけをつくる。 【目標】 年4回以上の実施	1. 若者向け音声配信企画 6月14日実施 2. ぽぽらフェスティバル実行委員会6～11月 3. ぽぽらで遊ぼう 8月実施予定 4. 若者・現役世代の居場所づくりワークショップ 11月実施予定
5	市民団体交流会			◎			○	【課題】 要望の多かった「防災」をテーマにしたが、他施設との重複により新味に欠け、交流会自体の意義が薄れた点が課題。 【今後の課題】 単なる親睦会に留まらず、「なぜ今この交流が必要なのか」という目的を明確に打ち出した企画立案を行う。	【目的】 登録団体がお互いを知り、連携につながる場や機会を提供する。 【目標】 交流会の参加団体数15団体以上	「ぽぽらステップアップアワード」3月実施予定 ・本年度月間イベント実施団体がエントリー ・事業内容振り返りプレゼン ・マッチング、支援希望の提示 ・参加者間投票により表彰、支援内容の確定
6	15周年記念イベント 「ぽぽらフェスティバル」	○		○		◎		【課題】 出展団体同士の交流も深まり、来場者にも話をよく聞いて頂けたこともあり、出展団体からの満足度の高いフェスティバルとなっているため、活動発表の場として継続して実施していくことが望ましい。 【今後の対応】 来年度、開所15周年記念事業としての企画を盛り込み実施する。	【目的】 多くの市民に市民活動を周知し、活動への参加のきっかけをつくるとともに、活動発表の場を提供することによって市民活動の継承を図る 【目標】 57団体（昨年参加団体数）以上	12/5（土）6（日）の2日間開催予定 ふれあいキューブ・保健センターと合同開催

令和8年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業計画一覧 （2/3）

No	事業名	1	2	3	4	5	6	令和7年度・実施結果に対する 課題と今後の対応	目的・目標	令和8年度 実施計画・実施予定
7	月間イベント	○	○			◎		【課題】 実施団体を固定化せずに、幅広く多くの団体に活用されるようにしていく必要がある。 【今後の対応】 利用団体に向けて積極的に月間イベント制度をPRしていく。館内のポスターを新しく目立つものに刷新する。	【目的】 共催事業として活動を実践・発表・報告する機会を提供し、各々の市民活動団体がステップアップしていくことを目指す。 【目標】 28回実施（昨年度26回）	4月26日カーレット春日部「体験会」 5月17日NP0法人子ども支援地域プラットフォーム「支援が必要な児童生徒の進路について」 5月24日国際交流協会「多文化交流サロン」（実施予定団体） 7月：平和フェスティバル実行委員会 ヒップファミリークラブ春日部 カーレット春日部 8月：春日部市歩こう会 平和民主革新の日本を目指す春日部の会 10月：ボランティア集団「花」 11月：春日部九条の会
8	情報発信	○	◎			○		【課題】 ホームページの情報発信数、SNSフォロワー、メールマガジン購読者は着実に増加傾向。 SNSでの発信内容に関して掲載可否の判断が難しい内容もあり、最低限のルールが必要。 【今後の対応】 令和8年度よりInstagramを開設。また、SNS規定を定め運用を開始。公平性を保ちつつ戦略的な情報拡散を追求する。	【目的】 より多くの市民に情報を届け、市民活動に興味を持ち、参加してもらうきっかけをつくる。 【目標】 主催・共催事業の告知を実施1か月前から動き出し、市民へ働きかける。	センター公式媒体を使用し、効果的かつ公平な情報発信を行う ・広報誌ぽぽらだより年4回発行 ・ホームページページ ・公式SNS（Facebook・X・Instagram） ・メールマガジン 上記に加え市公式広報を有効活用し、センターの認知度向上を図る ・広報かすかべ・春日部市公式SNS ・安心安全メール
9	相談事業	◎	○	○				【課題】 団体登録に関する相談が多いが、市民活動団体として認めてよい活動かどうかの判断に迷うケースが多くある。 （非営利な活動か、宗教活動ではないか、など） 【今後の対応】 相談内容のケーススタディをスタッフや所管課とも共有し継続的に検討していく。	【目的】 市民活動の立ち上げから運営まで、さまざまな相談に対応し、個別の支援ニーズに対応する。 【目標】 団体登録についてセンター職員が対応。	・市民活動に関する相談にセンター職員が対応 ・登録団体の活動支援、新規登録相談などに、開所時間中は誰もが対応できる体制を作る ・アドバイザーによる研修や外部の勉強会に参加し、職員のスキルアップを図る ・月間イベント等、登録団体が企画する事業へ積極的に関与し、支援の経験値を高める
10	運営パートナー制度	○			◎		○	【課題】 運営パートナーが高齢化しているため、新しく参加するパートナーを募集していく必要がある。 【今後の対応】 来館頻度の高い利用者を中心に声をかけていくと同時に、継続的に幅広く募集を行う。	【目的】 施設の運営に市民も参加してもらうことで、より公正で開かれた施設の実現に寄与する。 【目標】 運営パートナー会議2回実施	・運営パートナーの役割、仕事を定期的に情報発信する ・新規運営パートナーを常時募集する ・市民活動に興味のある個人を運営パートナーとして勧誘する ・運営パートナーの交流と研修を兼ねたパートナー会議を年2回開催する
11	モヤモヤカフェ	○		◎				【課題】 ゲストスピーカーの掘り起こしが必要。 【今後の対応】 登録団体にも目を向けて、団体活動や地域課題に目を向ける機会としても場を活用する方向性で検討。	【目的】 個人や団体がゆるやかにつながることを通じて、それぞれの活動が活発化し、広がることを目指す。 【目標】 年6回以上実施	登録団体の活動をテーマとしたもの：3回 登録団体以外の活動をテーマとしたもの：3回 利用者会議、3年更新、月間イベント、ぽぽらフェスティバルを活用し、ゲストスピーカーを発掘する

令和8年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業計画一覧 （3/3）

No	事業名	1	2	3	4	5	6	令和7年度・実施結果に対する 課題と今後の対応	目的・目標	令和8年度 実施計画・実施予定
12	フィールド リサーチ 団体訪問		○				◎	【課題】 定期的に行う地域への積極的な調査活動として、ヒアリング内容のレポートをホームページに掲載。 【今後の対応】 引き続き地域の活動現場を取材し、支援ニーズの聞き取りに努めていく。	【目的】 地域の人材を可視化していくことで市民活動の基盤を整備する。 【目標】 年4回実施	4～9月：市内の活動団体リサーチ 10～3月：団体訪問、レポートの作成、ホームページへの掲載
13	施設利用の 活性化				◎			【課題】 交流ミーティングスペースの利用については施設の設置目的を踏まえた上で柔軟な対応が必要。 【今後の対応】 引き続き館内各所の5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を徹底し、所管課と協議しながら環境整備を図る。	【目的】 市民活動団体への必要な支援として、施設の環境整備や機能の拡充、利便性の向上に取り組む。 【目標】 共同事務室の有効活用について計画を立てる。貸事務所1件	・交流MS、共同事務室の有効活用について利用者会議の年間テーマとして討議、登録団体以外の一般利用者のルール検討 ・貸事務所内覧会を毎月実施 ・デジタルサイネージの設置（4月に済） ・6階会議室へのWiFi設置
14	施設PR		◎		○			【課題】 市内イベントや講演依頼に積極的に参加していくことで、引き続き施設PRを行っていく。 【今後の対応】 藤まつりやふれあい大学等でのPRを継続して実施。	【目的】 藤まつりへの出展やふれあい大学の講義など、館外のイベントへの参加を通じて、センターの認知向上を図る。 【目標】 「春日部藤まつり」へ出展 ふれあい大学への出講	4月：藤まつりへの出展 11月：ふれあい大学への出講 時期未定：埼玉県立大学の学生ボランティア団体による活動「スマホサロン」を各地域へ積極的にPRしていく。
15	シンポジウム		○			◎	○	【課題】 県内の様々な活動主体とつながりのある公益財団法人いきいき埼玉と企画段階から協力し、また農業振興課から自治会と市民活動の連携好事例を紹介していただくことにより、充実した内容となった一方、その成果が当日参加者のみに留まり、外部への情報共有が不足していた点が課題。 【今後の対応】 広報誌での報告に加え、動画等を活用した詳細な記録を残す。企画段階からの講師・登壇者の選定や、実施効果を最大化する情報共有の手法を再検討する。	【目的】 まちづくりや地域課題についてテーマを定め、専門家の講演や市内外の活動事例を紹介し、協働による課題解決への道筋を一般参加者とともに考える。 【目標】 参加者30名以上	2月開催予定 市介護保険課との共催によるシンポジウム ・映画上映 ・介護福祉現場の事例発表 ・実施内容の見える化（文書または映像）
16	活動見本市		○				◎	【課題】 28団体が参加し、パネル展示自体は盛況でしたが、来館者に対して「より多くの方に足を止めて見ていただく」ための動線や仕掛けに工夫の余地があった。 【今後の対応】 展示内容を写真や動画に収め、SNSを通じて積極的に広報することで、来館できない層へも活動内容を届ける。 交流ミーティングスペースで学習している中高生などの若年層に対し、展示に関するアンケートを実施し、多世代に響く活動の訴求方法を再考する。さらに、単なる「掲示」に留まらず、展示内容を見た人が気軽に反応したり、団体とつながるきっかけ（QRコードの活用やメッセージカードの設置など）を作ることで、活動への参加意欲を高める工夫を検討する。	【目的】 登録団体が活動を振り返り、ステップアップするための機会とすると共に、団体同士が互いの活動を知る機会をつくる。 【目標】 参加28団体以上	1～3月交流ミーティングスペースにて展示開催 ・展示内容を画像、動画で配信 ・交流ミーティングスペースの一般利用者へのアンケートを実施 ・団体とつながるきっかけとなるデジタルメッセージカードの実施